

ご挨拶

—— 10年の感謝を込めて

一般社団法人千葉県地方自治研究センター理事長（法政大学法学部教授）

宮崎 伸光



一般社団法人千葉県地方自治研究センター（以下、「当センター」と略記）は、昨年12月に設立10周年を迎えることができました。当センターの設立にご尽力を賜りましたみなさま、そして設立時と同じく、あるいはまたそれにも増して、設立後の今日まで志を共にしてお力添えをくださいました数多くの方々に、改めまして心より御礼申し上げます。

一般に団体活動の常として、長い期間に渡って維持していくことは、発足時の困難と同じかそれ以上に難しいことに他なりません。任意団体であれ、社団法人であれ、何らかの思いを基に集い活動を始めることは、ある種の「勢い」でも可能になります。しかし、時を経て当初の強い思いが萎えることもあるでしょう。また、集う人々の構成が変化することもあるでしょう。当該活動を巡る環境は変化します。さまざまな変化を乗り越えて、あるいは変化をふまえて、活動を継続させることは決して容易なことではありません。

実は、私は当センターの設立に至る前史とも言える状況を比較的早くから遠目に眺めておりました。古くはまだ学生であった40年以上も前に出入りしていた神奈川県地方自治研究センターを通じて、そしてその約10年後には地方自治総合研究所に職を得たことです。つまり、当センターとはいわば兄弟関係に当たるセンター・研究所から地元千葉のようすを見ておりました。

私は、当センターの設立時にはすでに法政大学に転じておりました。初代理事長の井下田猛・姫路獨協大学名誉教授が、当センターの設立にご努力を重ねられていたことは耳にしておりましたが、とくに積極的に協力を申し出るわけでもなく、取り立てて何をするでもないまま過ごしておりました。

そこで、いざ当センターが設立されるというときに声を掛けていただき、副理事長のご指名までいただきましたことはまさに望外のことでした。とはいえ、今正直に吐露しますと、当時の私は実に「軽く」考えてお引き受けしました。もっと有り体に表現するならば、「長続き」はしないだろうと思っていました。もちろん、この「長続き」については「私以外」の事情、あるいは「私の預かり知らないところ」の事情によってということです。案外、私と同じように早期の「開店休業」ないし「店じまい」を当時予測されていた関係者も少なくなかったような気がいたします。

しかし、初代井下田理事長のリーダーシップの下で築き上げられた礎は盤石でした。もちろん、そこに多くのみなさま方のお力添えを得ることができて今日の姿があります。確かに一般に継続が創設にも増して難しい側面があることは上に記したとおりですが、こと当センターにつきましては、発足当初の礎に据えられた視点と視角に誤りがなく、その後の歩みはその延長線上を進んでいるよ

うに思います。

千葉の54市町村は、実に多彩です。最高地点は408メートルの愛宕山ですから高山が連なる山岳地帯はなく、豪雪に悩まされることもありません。離島は周囲約4キロメートルの仁右衛門島が最も大きく、有人離島となれば個人が所有する同島が唯一の存在ですが、その他は日本全国のあらゆる地理上の特性を備えます。この事実は、さまざまな魅力の可能性と共に、暮らしに係るあらゆる困難が表出し得るということでもあります。

実際、当センターが丸10年を迎えようとする昨秋、千葉県は台風3連発が引き起こす大災害に見舞われました。すなわち、台風15号による暴風被害と大規模停電の発生、台風19号による河川氾濫と大規模浸水、および台風21号と低気圧に伴う大雨による災害です。さらに思い起こせば2011年3月の東日本大震災では津波による被害もありました。大規模同時多発災害は、決してこれで終わりということではないでしょう。これらの経験をつぶさに調査研究することで日本全国に通用する

教訓や対策を導くことができるかもしれません。もちろん以上は一例に過ぎず、当センターの眼前には調査研究課題の山脈が壁をなす思いです。

井下田先生が2013年4月に急逝された後、私が後継理事長を拝命して丸7年に近づきます。期間こそ前理事長の概ね倍になりますが、果たして切り拓かれた登山口から先に道をどれほど進めることができたでしょうか。10年を契機に彼方を眺め、環境の変化とその先を見据えた活動、当センターならではの調査研究活動を進めて参りたいと存じます。

昨年私は大病を発症いたしまして調査研究活動や連載記事の中断などさまざまなご迷惑をおかけしました。改めてみなさまにはお詫びを申し上げますとともに、そうした私だからこそ、志を共にするみなさまと一緒に健康に留意しつつ調査研究活動を進めて参りたいと強く願っています。

10年間のお引き立て誠にありがとうございました。また、これから先も共に歩みを進めるべくご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



設立総会時の役員の皆さん（右から二人目が宮崎理事長、演壇は井下田初代理事長）